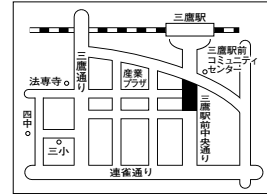


駅前地区

日時：9月1日(日) 午前9時～正午

会場：三鷹駅前中央通りほか



〈参加機関〉
駅前地区自主防災連
合会、三鷹駅周辺住
民協議会、警察署、
消防署、消防団、医
師会、三鷹市

〈訓練項目〉

出火防止、初期消火、可
搬ポンプ運用、避難誘導、
消防活動、救出救助、応
急救護、医療救護、本部
設置運営、給食給水、情
報通信、災害弱者対策



知っておこう！

災害時医療

大規模な震災などが起きた場合、家屋やブロック塀の倒壊、窓ガラスの落下、火災、パニックなどにより、通常の医療機関などの受入能力を大きく超えた多数の負傷者が発生することが予測されます。

医療救護は、直接人命に関わり迅速な活動が要求されるため、市は、初期医療体制を早急に確立するとともに防災各機関と密接な連携を取らなければならない被災者の救護を行います。総合防災訓練では、災害時特有の医療救護について防災機関の実践的訓練とともに、市民のみならずの医療救護訓練への参加、実施態勢の検証とを通じ、防災力の向上を図ります。市民のみならずも総合防災訓練を通じて、災害時の医療態勢や自分たちでできる応急救護の方法について、ぜひ体験してみてください。

災害時の医療態勢は？

大災害が発生した場合、円滑な医療活動のため、初期医療態勢として保健医療施設となる総合保健センターに医師、看護師などが開設されます。また医療拠点である市内10病院は、準備が出来次第、順次医療拠点としての活動を開始します。しかし医療活動を行う病院や救護所では負傷者が集中し、医薬品や時間的な医療環境が不足する可能性があります。

大災害時には多数のけが人が発生し救護所に引き込まれますが、医師や救急隊の優先度を決定する方法として、トリアージを実施します。トリアージとは、患者の傷の重軽や、救急隊の優先度を決定する方法として、トリアージを実施します。トリアージとは、患者の傷の重軽や、救急隊の優先度を決定する方法として、トリアージを実施します。

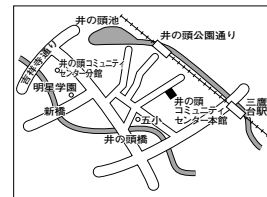
災害現場でのトリアージの進め方

トリアージの具体的な進め方は、次々と引き込まれるけがりに医師などは、赤いテープを貼ります。トリアージの具体的な進め方は、次々と引き込まれるけがりに医師などは、赤いテープを貼ります。

井の頭地区

日時：9月1日(日) 午前9時30分～午後1時

会場：井の頭コミュニティセンター本館



〈参加機関〉
三鷹市井の頭地区住
民協議会、消防署、
消防団、医師会、日
赤奉仕団、三鷹市

〈訓練項目〉

出火防止、初期消火、可
搬ポンプ運用、避難誘導、
消防活動、救出救助、応
急救護、医療救護、本部
設置運営、給食給水



市民の力で 応急救護を

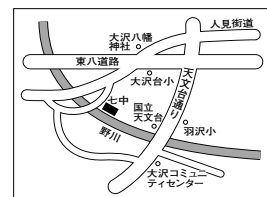
防災機関が行うこのような医療救護活動が始まるまでには、多くの時間を要します。この時間帯までに必要な応急処置を行うことが、被災しないことであり、次に助かった被災者はお互いに助け合おうとします。この自助、互助の活動が多くなる生命を救います。

また病院や医療救護所での活動が開始されるまでに生命に関わる治療が最優先されるため、トリアージの結果、けがの状態によっては治療の順番が自分からでない可能性があります。自分からできる応急手当は、自分で行うことも重要です。発生直後に最も頼れるのはみなさんの防災力といっても過言ではありません。

大沢地区

日時：9月2日(月) 午前10時～正午

会場：第七中学校



〈参加機関〉
大沢地域防災対策本
部、大沢住民協議会、
警察署、消防署、消
防団、日赤奉仕団、
三鷹市

〈訓練項目〉

出火防止、初期消火、煙
体験、可搬ポンプ運用、
避難誘導、消防活動、救
出救助、応急救護、本部
設置運営、給食給水



応急危険度判定員 連絡会開催される

大地震が発生した場合、被災した建物には、その後の余震などで倒壊したり、物が落下して、人命に危険を及ぼす恐れがあります。これらの二次災害を防ぐため、被災後すぐに被災建物の調査を行い、その建物を使用できるかどうかを判定してまいります。

住まわちを みんなで守る 地域の輪

—8/30～9/5は防災週間です—

1. わが家の安全点検をしよう

- 自分の住んでいる地域の特性や危険性を調べ、対応を考えておきましょう
- 家の耐震診断と補強をしましょう
 - 家の耐震診断を受け、必要に応じて補強を行いましょう
 - ブロック塀や看板などが落下・転倒しないように補強しましょう
 - 窓ガラスには、飛散防止フィルムなどを張りましょう
- 家具が倒れないようにしましょう
 - 阪神・淡路大震災でも、家具の転倒や落下によって多数の人が負傷しました。震度5強以上になると、書棚の本が落下したり、テレビ、タンスなどの重い家具が倒れる可能性があります。家具類はL字型金具などで壁にしっかりと固定しましょう。

2. 火災を出さないために

地震による被害を少なくするためには、火災を発生させないことが重要です。そのためには、日ごろから小さな地震でも揺れを感じたら「地震、火を消せ！」と声をかけあい家族全員が火を消す習慣を身につけましょう。消火の備えとして消火器や三角バケツなどを準備しておき、防災訓練などで使い方を覚えておきましょう。万が一、出火した場合には、隣近所に協力を求めみんなで消し止めましょう。地震時の消火には3つのチャンスがあります。

◇チャンス1 (揺れを感じたとき)
『グラッ』ときた時、その数秒の瞬間をどらえ、使っているガスの火などを消しましょう。

◇チャンス2 (揺れがおさまったとき)
大きな揺れの時は、まず机の下などに身を隠して、揺れがおさまってから消しましょう。

◇チャンス3 (出火したとき)
もし、出火しても1～2分程度ではあまり燃え広がってはいないので、手近にある消火器具などで十分に消すことができます。消火器で消せる範囲は、天井に火が燃え移るまでが限界です。
⇒三鷹消防署予防課 ☎47-0119内線521